12月 学校だより

渡子小学校
平成２１年１１月３０日

校長　長江留理子

１２月（師走（しわす））

１２月の別名を「師走」と言います。これは，ふだん落ち着いてどっしり構えている師匠のような人でも，あわただしく走り回る月，という意味だそうです。１２月は新しい年を迎える準備のために何かと忙しく動きまわる月といえます。

神話の国を訪れて







大国主命と兎の銅像
（出雲大社）

先日出雲に行くことがありました。駅に着いて玄関の天井を見上げると，国引きや因幡の白兎の大きな絵が目にとまりました。さすが神話の国だな・・と思いました。でも因幡の国というのは，鳥取県なのに，なぜ出雲の駅に絵があるのだろうとも思いました。それは「因幡の白兎神話」を読んでみればわかります。だれもが小さい時に一度は聞いたことがある話だと思いますが，この度改めてその地で読み直してみました。

「因幡の白兎（いなば　しろうさぎ）」

出雲（いずも）の国から**因幡（いなば）**の国に旅していた**大国主命（おおくにぬしのみこと）**が，兎を助ける話です。海を渡りたい兎はワニをだまし，ワニの背中を踏んで海を渡ろうとしますが，あと一歩というところでワニに気づかれてしまい，ワニのするどい歯で兎のふさふさとした白い毛はすっかりむしりとられ，赤裸にされてしまうのです。大国主命は兎を助け，「ワニをだましてはいけないよ・・」と教えてやります。

鳥取県には，**白兎海岸（はくとかいがん）**というのがありますが，この神話にちなんだ地名です。

旧暦１０月，出雲大社に全国の神々が集まるので，全国では「神無月」といいますが，出雲だけは「神在月」といい，「神在祭」のポスターが貼ってありました。この祭りに供える餅を「神在餅」といい，出雲弁がまじって，今の「ぜんざい」という言葉ができたのだそうです。「じんざい」―「ずんざい」―「ぜんざい」というふうに。研究大会の昼には，アトラクションとして，民謡同好会の方が「安来節」を披露されました。道中（広島県北辺り）のバスからは，「神楽の里」という看板をよく目にしました。
神話や民話の文化にふれる旅でした。子ども達にも話してやりたいと思います。